

ASEAN と日本を繋ぐ
「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム
平成 30 年度 実施報告サマリー

派遣期間	2018 年 11 月 3 日～2018 年 11 月 11 日（8 泊 9 日）
派遣国	カンボジア王国、タイ王国
連携大学	王立農業大学（カンボジア王国）、カセサート大学（タイ王国）
派遣学生数	農学部 3 年生 27 名（カンボジア 14 名、タイ 13 名）、生命農学研究科大学院生 9 名（TA；カンボジア 4 名、タイ 5 名）
参加学生数	28 名
プログラム概要	<p>本研修は、東南アジアにおける対照的な 2 つの国（途上国としてのカンボジアと先進国としてのタイ）を研修地とし、各国の農業の現状を現地学生とのグループワークを通じて実体験する。東南アジアの国々の農業現場を実際に見ることにより、農業そのものの発達ばかりでなく、農業と社会との関わりをつぶさに体験する。学部 3 年次までに学んだ基礎的な知識や概念、また、実習における経験をもとに、学問を発展途上の農業へどのように生かすのかを考える。研修を通じて、農業の原点である開発途上国あるいは熱帯農業の現状への理解を深め、国際的視野を身につける。</p>
スケジュール概要 (事前・事後の教育も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修：カンボジアとタイの歴史や社会、産業などに関するグループワークと発表・討論（英語で実施）。危機管理オリエンテーション（日本語で実施）。 ・研修中：王立農業大学（RUA）またはカセサート大学（KU）の学部 3～4 年生とチームを組み、政府機関、農村、企業、市場における調査・インタビューを実施。研修最終日には、調査結果のプレゼンテーションを実施（研修中のスケジュールは別紙資料を参照）。 ・事後研修：研修成果の総括。
産学連携： 連携機関、企業、訪問先等	カンボジア、タイの現地農業・食品関連企業 クラタペッパー（カンボジア）、イオンモール（カンボジア）など
成果報告 (学生の成長や相手国との連携について)	<p>本研修は「専門性」「国際性」「協調性」「相互理解力」をもつ人材の育成を達成目標とした。参加学生は異国の農業を実際に目にするこで、農学に関する専門的知識を身につけた。研修中に訪問国の同年代の学生と英語で討論し、文化の異なる背景をもつ外国人学生との共同作業の経験を積み、国際的な視野が育まれた。グループワークでは、計画立案や成果の取りまとめの討論を通じて協調性を養うとともに、相手の意見をよく聴いて成果をまとめ上げるチーム力・相互理解力を身につけた。本研修の参加学生は、大学院に進学して各自の研究領域で研修参加経験を活かした研究・学習に取り組むことも多い。これらの学生の研究交流のために、大学間学術交流協定校である RUA および KU との連携をさらに深めていきたい。</p>
実施部局	大学院生命農学研究科・農学部
実施責任者	大蔵 聡